

令和元年度第2回天理市総合教育会議会議録

1、開会年月日 令和元年10月28日（月）

2、閉会年月日 令和元年10月28日（月）

3、出席委員氏名

並河 健	森継 隆	西畑 敦司
名倉 幸子	西田 伊作	吉田 義和

4、委員及び傍聴人を除くほか議場に出席した者の氏名

副 市 長	藤田 俊史
事 務 局 長	木村 昌訓
事 務 局 次 長	青木 仁
教 育 総 務 課 長	粕谷 治
ま な び 推 進 課 長	高山 仁
ま な び 推 進 課 付 課 長	山村 結紀子
ま な び 推 進 課 指 導 係 長	藪内 善史
教 育 総 合 セ ン タ ー 所 長	西田 智也
総 合 政 策 課 長	上田 義之
児 童 福 祉 課 長	中村 香
教 育 総 務 課 庶 務 係 長	中村 亨

5、会議に付した案件

- 1 次期教育大綱の事務局案について
- 2 基礎学力の向上について

6、会議の経過議題

開会	午後 2時00分
終了	午後 4時08分

1 市長

こんにちは。本日、第2回天理市総合教育会議を開催いたしましたところ、委員の皆様方にご参集いただきましてまことにありがとうございます。また、この総合教育会議には吉田委員が、初めてご参加いただくこととなりますが、よろしく願いいたします。

本日の議題といたしまして、次期教育大綱について原案がございますのでそちらをご確認いただくこと、また、本日のテーマということでは、基礎学力の向上についてご審議いただきますので、どうぞよろしく願い申し上げまして、本日のご挨拶とさせていただきます。

1 教育総務課長

ありがとうございました。

案件に入ります前に、資料を確認いたします。あらかじめ送らせていただきました次第と、次期教育大綱の事務局案が4ページまでございます。本日、お配りしていますが、総合教育会議資料が5ページから8ページまでございます。一部、委員の方々には追加の資料を置かせていただいています。

資料に過不足等はございますか。よろしいでしょうか。

それでは、案件に入りたいと思います。

案件の議事進行につきましては、並河市長にお願いしたいと思えます。終了時刻は16時を予定しております。よろしく願いいたします。

1 市長

それでは、議事へ入りたいと思います。

まず、案件の1番です。「次期教育大綱の事務局案について」の説明をお願いします。

1 教育総務課長

案件1の「次期教育大綱の事務局案について」説明いたします。

8月の総合教育会議で次期教育大綱の策定方針について、現教育大綱を基礎として修正が必要な部分があれば修正していく、一部修正方式で行うことを確認いたしました。

現教育大綱の各施策を簡潔に表現するとともに、その中身を修正、または追加したものが事務局案となります。

本来、一つ一つ報告させていただくべきものですが、時間の都合上、事前にお渡ししております資料でお気づきの点がございましたら、ご意見等をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。

順番にいけますが、1つ目、「夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要な力を持った人づくり」、こちらから順次ご意見等を賜りたいと思います。

1 市長

では、1番の(1)就学前教育の充実、(2)義務教育の充実、(3)特別支援教育の充実、(4)青少年の健全育成、(5)「学び」の環境整備とございますが、委員の皆様方でこの件についてお気づきの点等ございましたらお伺いしたいと思います。

1 西田委員

(2) ⑤「児童生徒の体力の向上を目指し、スポーツする子どもたちの育成に取り組みます。」ということで、この「スポーツする子ども」という、その「スポーツ」という言葉から連想されるものは、どうしても競技としてのスポーツという印象が、読み取れるのですが、この大事なところは、体力向上を目指しての取組だと思えます。一般的にスポーツと一言で言ってもいろいろなスポーツがあるとは思いますが、すけれども、「競技としてのスポーツをする子ども」と読み取れましたので、そう意図するのであればそれでいいのですが、むしろ運動、体を使うことを子どもたちに積極的にさせたいという思いであれば、そう読み取れる表現の方がよいのではないかと思います。

スポーツでも、(1)の就学前のところには、④で具体的にこういうものに取り組むということを書いてありますし、(2)⑤については抽象的な表現なので、読み手がそこまで読み取っていただけるのかどうかと思いました。

1 教育長

スポーツには、もともと気分転換とか余暇を楽しむという意味もあって、これから体育はスポーツに変わっていくというのが一つです。

競技的なものに限定して捉えられかねないというのであれば、体力向上を目指し、積極的に運動する、体を動かす、といった表現をもう少し考えてみます。スポーツというのが表現的にいいとみんなで議論して決めたのですが。

1 西田委員

その意図が伝わればいいと思います。

1 教育長

誤解を招くようでしたら表現を変えてもよいかもかもしれません。

1 吉田委員

私は、スポーツに親しむようなイメージでとっていたのですが、(1)就学前のところでも、「運動することの楽しさに気づかせ」と、スポーツすることの楽しさを入り口として書いているのかなと思ったので、違和感はありませんでした。

スポーツするというそういう動詞があるのかはわかりませんが、スポーツに親しむぐらいのニュアンスでいいのではないかと思います。

1 市長

ここは⑥に「スポーツの町・天理」としてということも書いてあって、さまざまなものがまちにあるのが本市の強みでもあると思うので、純粋に競技としてのスポーツということであれば、子どもたちの中でも限られてしまうので、どちらかをとってということではないかなと思います。

それでいくと、例えばさまざまなスポーツに触れる機会をつくるとともに、体を動かすことを通じて育成に入りますとか、その趣旨がわかりやすいように少し書き下してはどうかでしょうか。身近にス

ポーツがあって、そこから刺激を受けるのも、他の市ではない要素ではないかと思imasので、単に体を動かすだけを書いてしまっても、それはそれでもったいなと思います。いろいろな要素があると思imasので、文言を整理したいと思imas。

ほかはいかがでございましょうか。

1 吉田委員

最初の4行の文章の中に、特に「読む力」「書く力」「数学的思考力」とありますけれども、これは国語、算数、数学に限ってのことではなくて、広い意味で使われていると思うので、「読み取る力」「表現する力」「論理的に考える力」としたほうが、教科に限らず広い意味で取り組んでいけるのではと思imas。

1 市長

特定教科というよりも、趣旨としてはこちらの方が、ということですね。

1 吉田委員

そうですね。

1 教育長

文科省のSociety5.0のところではっきりと「数学的思考力などの」と表記があったので、それを参考にして、これはいいと思imasして考えて書かせていただきました。

1 市長

数学的思考力ということは、数学的とは必ずしも教科における数学に限定するというのではないと、そういうことも含めてですか。

1 教育長

数学を学ぶのは思考力が一番の目的になっていますので、限定のようにとられるかもしれませんが。

1 市長

いかがですか。皆さん。

1 西畑委員

教育長のカラーが存分に出ている表現かなというのがあってその分限定的な意味に捉えられないかという心配があるようですね。

もう一つは、情報の活用能力が、Society5.0の話で書かれていて、情報活用能力から出てくるものが当面の目標として展開されてくるかと思imas。プログラミング教育の中でもプログラミング的思考、論理的に物を考えるというところで、ここで吉田委員の話とつながってくると思imas。

数学的思考力もちろん論理的に考える力ではあるのですが、そこもあわせながら論理的思考力と書いていただいた方が当たりはやわらかいかなと思imasますが、いかがですか。

1 市長

幅広く捉えるような気はしますが、情報活用能力等も含めて論理的思考力の方が多くを含め得るということですね。

1 西畑委員

両方の意味があると、1の(2)の④のところでプログラミング学習に積極的に取り組みますというところに生きてくると思います。

1 市長

なるほど。

1 名倉委員

もちろんそういう考え方もありますが、やはり論理的思考力と数学的思考力も考え合わせて、こちらの数学的思考力を選ばれたという意図がありますので、その意図を尊重したらいいのではないかなと私は思っています。

1 西田委員

意味合いとしては、論理的思考力となるのでしょうけれども、これを読む人が一番その意図するところがわかりやすいほうがいいと思いますので、「数学」という教科を連想させる言葉と「論理的」という言葉が並んだときには、どちらかと言えば「論理的」の方が一般的には、理解しやすいかなという気はします。ただ、これを策定されるに当たってはいろいろと検討された結果だと思いますので、名倉委員のおっしゃるように、それはそれでわからないことではないと思います。

1 教育長

皆さんの意見を聞いて、「論理的」という表現にします。

1 市長

わかりました。

それから、読む力と書く力の方はどうでしょうか。実際この数年間、書く部分が弱いということで、書く力を向上させるということをやってきて、もちろん書く以外も含めて言葉で、口で伝えるとか、ボディランゲージも含めて、全てを表現するということだと思いますが。

1 教育長

ここは、ずっと言われている読み、書き、そろばんを踏襲して読む力、書く力、数学的思考力というのを表現しています。

1 市長

大綱でいただいていたのは、この部分は学習に直結する項でもありますので吉田委員、よろしいですかね。読む力、書く力でも。

1 吉田委員

はい。

1 市長

「読む力」「書く力」「論理的思考力」という形に変えたいと思います。

そのほか、お気づきの点はございませんか。

1 名倉委員

義務教育の充実のところの①と②の重なっているところですけども、①の最後に「集団づくり」「授業づくり」を推進しますというのと、②授業力を向上しと書いてあるのですけれども、この授業力の向上とか授業づくりとかは、先生たちの努力あるいはスキルを磨くとい

うことで、小学校によっては公開授業を積極的にされていて、それでいろいろな先生のよいところを取り入れたり、その公開授業をすることによって気づきがあったり、かなり努力されている学校もどんどん増えてきていますので、この文言だけで済ませていいのかという気はしました。取り組んでいることをもっと載せていってもいいのではないかなと思うのですが、どうでしょうか。

先週、櫛本小学校の公開授業を見せていただく機会がありまして、やはり公開授業の意義も大変重要だと思います。公開授業を見る先生方がたとえ10分、15分でもいいので授業を見に来ていただいて、多くの先生が見学されて、刺激を受けていたと思います。前は1年生のペア学習だったのですけれども、ペア学習やグループ学習の必要性なども、今からまたどんどん言われてくると思います。

他の学校も推進していると思いますので、先生方が日々、研鑽されていることも載せていってもいいのではないかと感じました。

1 市長

いかがでしょうか。授業づくり、授業力と、書いてあるだけでは足りないのではというご指摘です。

1 教育長

大綱であるので目的的に書いてあります。①は校長会で先生たちが話し合って集団づくり、授業づくりを同時進行していく必要があるということになっているので、これを忘れてはならないので書かせていただきました。先生の努力について、評価していただいてありがとうございました。

しかし、やはり常に授業力を向上させようと、それを教師は持たないといけないと思いますので、これからも頑張っていきたいという思いで書かせてもらったのですが。

1 名倉委員

大綱ですので、そうくどくどと書き並べてはいけないと思いますがもう少し書いてもよいかなとは思いますが。

1 市長

あえて書くのであれば、積極的な公開授業の実施を含め授業力を高め、といった具合に、何か例示的な要素として入れるということですね。

1 教育長

公開授業のことは書かなくても十分だと思うのですが、公開授業以外にも研究会に参加するとか、自己研鑽をするとかありますので、あとはアクションプランに盛り込んでいけばと思っています。

1 市長

そうですね。アクションプランはいつ審議しますか。

1 教育長

年末までにします。

1 市長

結局、大綱の文言がどうこうというよりも、それがどれだけ実践さ

れるかがありますので、今の指摘をきちんと議事録の中に入れていただいて、きちんとアクションプランの中に盛り込んでいくということによろしいでしょうか。

1 名倉委員

はい。

1 吉田委員

学習指導要領の目標と内容は書かれているみたいですが、方法については教員任せということになりますが、今回の指導要領は協働的な、アクティブな方法を使っているのですが、その方法も増えてきました。それぞれの先生方が一生懸命頑張っておられるわけですが、個人で頑張っておられる印象がありますので、学校として一つの方向を決め、学校の研究テーマを決めて公開授業をしながらお互いに高めあうといったことが、これからますます大事になってくると思います。

1 名倉委員

そうですね。学校によっては公開授業のプログラムをきっちりとつくってシステム化されている学校があります。学校によって差がありますね。

1 教育長

回数は差があります。

1 名倉委員

そうですね。

1 まなび推進課指導係長

研究授業は学校によって差はありますが、どの学校も熱心に公開授業、研究授業がされているような状況です。

1 市長

個々に頑張っていることをもう少し、学校全体の取組として行っていただけたらということでしょうか。

1 吉田委員

大綱の中でどうこう変更するのではなくて、アクションプランの中で盛り込んでいけばよいと思います。

1 市長

そうですね。だから、その中ではそれこそ校長先生のリーダーシップも非常に大事だと思います。

1 名倉委員

そうですね。特に頑張っているという印象ではなくて、既に公開授業がその学校の中の枠組みとして位置づけされていますね。

1 市長

では今のポイントはぜひ押さえられるように、よろしくお願ひします。

ほかにいかがでございましょうか。

1 西畑委員

(2)の中で、④以外は、何のためにどうしますというのがあるような文章のつくりになっているのですが、ここだけ小学校英語教育、

プログラミング学習に積極的に取り組みますと、何を目的としているかがわかりにくいので、何かつけ加えたほうがいいのではないかと思います。

1 教育長

目的と言っても新学習指導要領に対応するためという以外は、これは「します」ということ以外には書きようがないのですが。

1 西畑委員

例えば、英語教育に関しては天理市の強みでもあることですし、それと、最初に言っている読む力、書く力、これはそもそも日本語の話として書かれていると思いますが、そこに通じるものでもあるかと思えます。

プログラミング学習は、その論理的思考力、数学的思考力につながっていくものかなと思うので、市の施策としては、取組が何か目的につながっているということがあったほうがわかりやすいと思います。

1 市長

文科省がやると言っているので、天理市の取組はそうだという受け身にも聞こえてしまいかねないので、英語教育は英語教育で本市としての考えだったり、プログラミング学習はプログラミング学習で本市としての考えもあるというところを示した方がいいかもしれませんね。しかし一つにまとめるのは難しいかもしれないですね。明らかに英語教育とプログラミングと分かりますので、少し文言を考えてみましょう。

1 教育長

次の総合教育会議までに考えます。

1 市長

はい。ですから、おそらく、項が1個増えますね。
その他はいかがでございましょうか。

1 西畑委員

(3) のところで障害という言葉が出てくるのですが、障害の「害」は平仮名になりませんか。

1 市長

皆さんはいかがでしょう。私はこれについては、平仮名にすべきと強く主張し続けています。

1 教育長

総合計画ですか。

1 市長

総合計画についても平仮名にすべきと強く主張し続けています。

1 教育長

総合計画に合わせて書いています。

1 市長

障害者福祉団体連合会にこだわりがあると言うのですが、どうしても世の中の趨勢からいって、あえて使用していると捉えられてしまいかねません。あるいはあえて「害」という字を使用すると共生社会と

いう方向性にどちらかというとな否定的になっていると一般的にはどうしても捉えられるので、全体に行き渡らせる文章では平仮名にしたほうがいいと思います。再考してみましよう。

1 西畑委員

ぱっと見で判断してしまうことはやはりありますね。

1 市長

そうですね。再考させていただきます。

1 教育長

表記については、教育委員会としては市長のお考えで結構です。

1 市長

わかりました。

1 名倉委員

別件ですが、(2) 義務教育の充実の⑥と⑦ですけれども、⑥は「スポーツの町・天理」として天理大学や市内高校との連携事業、⑦は「音楽の町・天理」として中高の連携を図る事業と書いているのですが、確かに事業的な連携とすれば⑥でしたら大学、市内高校、⑦でしたら中高にはなるかもしれないのですが、事業ではなくて連携をとれているのは、もう保幼小中からずっと大学まで連携はずっととれていると思います。

これは事業に限っての連携という意味でしょうか。

1 市長

校外活動等も含めてですね。

1 名倉委員

ですよ。そうするともっと広がっていますので、保幼小中は文言として入れるべきではないのでしょうか。事業と書いているから限定的な意味かなと思っているのですが。

1 市長

名倉委員の今おっしゃっていただいたのは、例えば音楽だったら中高だけじゃなくて幼稚園や小学校も全部含めてでしようということですね。

1 名倉委員

はい。意図がちょっと分からないのでお聞きしようと思います。

1 市長

そうすると、義務教育の項目ではなくて、全体に本来かかる場所ではないのかというところですかね。

1 名倉委員

これだけを見たら大学と高校しか連携してないのかなと、勘違いします。

1 教育長

保幼小中は、天理大学や市内高校から来ていただいているいろいろなことをしていただくという意図で入れました。

1 名倉委員

そうしたらこれは、保幼小中は入っているのですか。

1 教育長

書いていないですけども、入っているものということです。

1 名倉委員

なるほど。これは保幼小中に対しての連携事業という意味ですね。

1 教育長

ほとんど小中になってしまいますけども、小中に今来ていただいているのを、さらに継続していきます。

⑦は、音楽でやっていることは中高の連携、ふれあいコンサートを意図して書いています。

1 名倉委員

わかりました。そうしたら⑦の音楽は、現状はあまり大学は連携していないことになるのですか。

1 市長

どうですか。音楽分野ではあまり聞かないですかね。

1 まなび推進課長

天理高校とのかかわりは若干ありますが、大学とのかかわりは今のところないです。

1 西畑委員

中高と連携をして、保幼小の話もやっていくということですね。

1 市長

よろしいでしょうか。

1 名倉委員

はい。

1 市長

他はいかがでしょうか。

1 西畑委員

(4) ①のところですが、総合相談窓口「夢てんり」を開設し、とありますが、既に開設されている項目ですよ。

1 市長

そうですね。

1 西畑委員

文言の問題だけですが、既に開設されているので、継続してやっていくという意味合いを出したほうがいいと思います。

1 市長

これは「創設し」という意味に捉えられるということですね。文言を整理しましょうか。

他はいかがでしょうか。どうぞ。

1 吉田委員

(5) 「学び」の環境整備ですが、①に、ICT機器など物の充実が書かれていて、②は、福住小・中学校の少人数の魅力を活かしとあるんですが、物的環境の充実と、それからもう一つはあえて書く必要があるかは分かりませんが、人的環境の整備が必要かなという気もするので、考えていただきたいと思います。

例えば学校の先生方が、一人一人の個人営業の集まりが学校の取組ではなくて、いろいろな先生がいる中で協力し合って学校の組織が力を発揮してくるわけです。神戸の小学校問題ではありませんけれども、学校の先生方がそれぞれ動いておられる中で全体としての力を発揮するようなということを人的な環境整備ということで、全教職員が学校の組織的な取組を発揮できるような体制づくりとか、そういったことも盛り込んでもよいかなと思います。

1 西畑委員

(5) の環境整備ということは、例えば制度づくりとか何か市の施策を打たなければならないと挙げておいて、職場の環境づくりの話はアクションプランの中で出すほうがよいのではと思います。

1 吉田委員

「学び」の環境整備が一つあって、その一方でもっと大切なのは、教員が全ての力を発揮できるような集団として自主的に動ける、そういう教育の「装置」として働かねばならないわけですから、その力を十分出せるような教員集団づくり、あるいは学校体制づくりが大切かなと思います。教員も子どもを伸ばす環境であり、子どもを伸ばす装置であると考えたら、やはり人的環境整備も必要かと思って聞いたのです。

1 西畑委員

それによって向上されるものが、授業力に活かされる。そこは(2)の②のところにつなげていくほうがいいのかと思います。具体的に職場環境をどうこうと、(5)で言うものではないかなと思います。

1 市長

授業力云々という前の次元のこととして必要な要素なのか、ちょっとどういう書きぶりにするかはともかくとして、例えば先生が人間関係に困っておられる、悩みを抱えている、子どもに向かえない状況があるということがあったときに、どういう体制をとっていくのかということはアクションプランにあってもいいのかなと思います。

1 吉田委員

教員同士のことでなくて、教員が子どもたちに対してしっかり力を発揮できる環境づくりが、学校体制づくりということでお話ししていたのですが、アクションプランの方ということでもよいと思います。

1 市長

ですから人数的に足りないとか、それを充実させないと、という話の方向に向かうときもあるでしょうし、校務支援システムのような形で雑事よりも授業に力を集中できるという議論もあるでしょうし、ネガティブな方向を解消するということもあるでしょうし、いくつか分かれていくのだらうと思います。

では、どういうふうに関の要素を盛り込めるのかは宿題とさせていただきます。是非に大事なポイントであろうと思います。

ほかにかがででしょうか。

では一旦、次の項目に移りますが、また思い返して、何かもしございましたら、ぜひおっしゃっていただいたらと思います。

2. 子育て環境の整備とコミュニティづくりで何かございますか。
はい、どうぞ。

1 吉田委員

細かいところですが、(1)の⑤の安心・安全ですけども、安全・安心の方がいいかなと思います。安全・安心メールといったものも天理市はありますので。

1 市長

順番のことですね。メールは安全・安心メールですね。特段のこだわりがなければこれを逆にしてよろしいでしょうか。

1 教育長

はい。

1 市長

他はにかがででしょうか。名倉委員のおっしゃっていただいている、スポーツや音楽等の連携はこの(2)の③に含まれているということではよろしいですか。

1 名倉委員

はい。

1 市長

他にございますか。よろしいですか。

では、3. 生涯学び、活躍できる環境づくりで、もし何かございましたらよろしくお願いします。

1 吉田委員

(3)の環境教育の推進ですけれども、①は児童生徒に対するもので、ここにあってもいいかなと思うのですが、子どもに対する環境と、全市民に対する両方が含まれているものと捉えて、持続可能な開発のための教育、いわゆるESDと書かれていますけれども、小中学校等でやられているのは、森林体験や現地学習・体験活動というESDの目標に沿ったものが並べられているのですけれども、そこまでしてくださっているなら、持続可能な社会づくりの担い手を育てる、もしくは学習指導要領に入れてきているESDも含めて目標に並べられていいのかなと思います。いかがでしょうか。

1 市長

非常に重要なことだと思います。

1 教育長

消極的な意見になりますが、ESDを十分に展開できる自信はありません。

ESDから、ユネスコスクールにつなげていくということでしょうか。

1 吉田委員

天理市全部をユネスコスクールにしようということではなくて、ESDが掲げている目標に沿ってやっていることを示されたほうがいい

のではないかなと思います。

1 市長

それは非常に大事なポイントかと思います。ユネスコスクールだけの問題ではない。

1 吉田委員

ESDという言葉やユネスコスクールは出さなくてもいいと思うのですが、体験活動を中心にした環境教育を推進し、持続可能な社会づくりの連携をとっていますということを書かれてはどうですか。

1 市長

重要です。継続可能な社会の担い手づくりを進めますと。児童生徒に対し、クリーンセンター見学や森林体験など現地学習・体験活動を中心とした環境教育とか、持続可能な社会の担い手づくりを進めますということですね。そういう文言を入れた形のもの、またご確認いただいてもよろしいですか。②のところもそういう要素を入れたほうがよさそうですか。

1 吉田委員

やっぱり生涯学習ですね。

1 市長

はい。児童生徒だけではない問題だとは思っているのですが。

1 吉田委員

事務局で調べていただき、必要ならば書かれたらと思います。

1 市長

ぜひ。

1 西畑委員

(3)のタイトルを変えてしまうという手もあります。

1 市長

環境教育ではないということですかね。

1 西畑委員

あとはこっちの①、②は、そのまま置いておく。

1 市長

そうすると、はっきりSDGsという言葉を使ってしまうかですね。

1 吉田委員

わかればいいですね。

1 市長

はい。

1 教育長

SDGsを出すのであれば、①、②も書き直したほうがいいですか。

1 市長

でも、児童生徒に対してもやっていかなければならないし、全市民的にもしっかりやっていただかねばならないしというところからすると、(3)自体は環境をもう少し広く考えて、社会に向けてというところをはっきりさせたほうがいいということだと思うので、書き方自体をそういうふうに工夫するということです。

1 教育長

それなら①、②そのものを別に書き直すということですか。

1 市長

中も書き方を変えてもいいかもしれませんが、ですからこの(3)全体を今、環境教育とだけしてしまっている部分を改変することによってよろしいですか。

1 吉田委員

はい。

1 教育長

SDGsを意識した社会づくりとなると、教育大綱というより社会づくりの内容になっていくのではないですか。

1 市長

教育においてそれをしっかりやっさいこうということです。

1 教育長

教育において、①はわかりますけどね。②は少し違うと思います。

1 市長

この環境について学習するための各種講演会開催やリバーウォッチング、落ち葉を集めて堆肥にするとか、環境市民ネットワークの方からすれば、自分たちはずっとやっさいきているから、これこそSDGsに資する取組だとおっしゃると思います。

1 教育長

①、②を残すのであれば、環境教育の推進になるのではないですか。その中にSDGsやESDをいれると少し違うと思いますが。

1 市長

中身ではなくて、持続可能な社会に向けた取組の中に環境というところが入ってくるのであって、SDGsには、貧困の撲滅だとか、いろいろ、他にももちろん要素はある。

1 教育長

たくさんあり過ぎるから、環境教育だったら環境教育と書いておかれるほうが良いと思います。

1 市長

いや、それを目指す理由は何かという方向性からすると、社会が持続可能でなければならぬ。それに対する時代の関心が非常に高まっている。となると単なる環境教育を推進するのは全然違うと思います。

1 教育長

そうすると中身が①、②だけでは足りなくなりますね。

1 西畑委員

一度にできないので、ここから取り組んでいますという形でいいと思いますが、非常に広範な目標であるのはそのとおりでSDGsと言いつながらこれだけしかやっさいないのかと言われるということでもありません。

1 市長

今回は市の総合計画の中でも、それぞれがどの項目に当たりますかというようなことを協議するようにやっていますので、教育の中ではこういうことをやっていきます。生涯教育の中でこういうことをやっていきますということでもいいのではないですか。

1 教育長

①、②の内容のままですと変えるということでもいいですね。

1 市長

一旦はそれでいきましょう。そこにもう少し趣旨、目的として持続可能な社会の担い手づくりというような要素をきちんと書いていく。

他はいかがでしょうか。よろしいですか。

では、次の4. 人も自分も大切に作る確かな人権感覚づくりのところをお願いします。

1 西畑委員

3ページの「本市は、海外から訪れる多くの天理教信者や天理大学留学生が暮らしているなど」というところが、海外から訪れる多くの天理教信者というのと、天理大学留学生と言葉的には同じ並びになってしまうので、そうすると、海外から訪れる多くの天理教信者が暮らしているという意味合いになってしまいますので、ここの文章はちょっと整理したほうがいいと思います。

本市は、多くの天理教信者が海外から訪れる。天理大学留学生が暮らしているなどという同じ、つながりにしたほうがいい感じがします。

1 市長

教育大綱で出す文章なので、もちろん帰参される方がその多くであることは事実ですが、天理教信者というのも直接的すぎる気もします。ですから、「本市は海外からの来訪者が多く、また多数の留学生が暮らしているなど」といった具合でどうでしょうか。

1 西田委員

多数としたほうが天理大学以外にも、例えば天理教語学院とか、そういう学校もありますし、多数の留学生がいることに違いありませんので。

1 市長

他はいかがでしょうか。中身の(1)、(2)のところなどで。よろしいでしょうか。

それでは、一旦いただいたコメントを踏まえて反映をさせていただきつつ、今この直接的に大綱中ではないけれども、アクションプランの中に取り組を反映していきましようということで、次回に見ていただくかたちになるのですか。

1 教育総務課長

まず、第6次総合計画と同じ時期にパブリックコメントにかけますので、次期教育大綱案を、一旦修正したものを教育委員の皆さんに見ていただいてパブリックコメントへ進めたいと思います。

そのパブリックコメントをかけている間にアクションプランを考えていきます。第3回は2月になる予定としておりますので、そのとき

に確認していただきたいと思います。

1 市長

はい、わかりました。今の段取り、進め方でよろしいですか。

ありがとうございます。

それでは、案件の2に移ってまいります。

基礎学力の向上について、教育総務課よりよろしく申し上げます。

1 教育総務課長

本年度の総合教育会議では、扱うテーマを昨年度に引き続き「基礎学力の向上について」と「地域と学校について」と「不登校について」の3つのテーマに絞ってご議論いただく予定にしております。8月の第1回の教育総合会議では、地域と学校についてご議論いただきました。本日、第2回となる今回のテーマですね、基礎学力の向上ということで、森継教育長にご説明をお願いしたいと思います。それでは、よろしく申し上げます。

1 教育長

(スライドを用いて説明)

資料は渡していますが、平成27年度から今年度までまとめて各行動表というか、勉強時間と成績といったものに注目した問題で進めていただいて、グラフ化したものです。

平成27、28、29、30、31年の経年変化で2つ、グラフになっているのはいわゆる偏差値です。折れ線は市/国ということで、何かをもとにして比較しなければならないので、点数だけ見ても上がり下がりがわからないので、市/国をつけているのですが、算数は95%近くまで上がってきているということで、国に対して95%しかないのかというふうにもとれるのですけれども、今年は頑張ったということです。

国語は、下降傾向にあるということになります。

棒グラフを見ていただいたら、これも偏差値ですが、国とは学力に差がないですけれども、上がっていても偏差値の傾向は変わっていないことがあって。何を基準にしたらいいのかと思わないことはないのですが、何かで比較しようと思ひ、違う年度で比較しようと思ったら、偏差値が一番妥当かと思ひます。

中学校を見ていただいたら、数学は初めて国の90%を超えることができたのですが、国語は下がっている。成績の割合というのか、この図を見たら、左が2色、ブルーとグリーンが多くなければならないのですが、半分を超えていないので、半分以下が若干あるのと、紫色がなくなるようにしていかないとはいけないと思ひています。

それで、先ほど中学校の成績で、中学校も下がっていることをお見せしたのですが、平成28年の小学6年生が平成31年の中学3年生になっているので、どういう状況にあるのか、偏差値を同一人物で引き算しましたら、ここでも数学が上がっているということで、下の表を見ていただいたら、プラスは上がっている、マイナスは下がっているということで、プラスプラスタイプが132人と、両方とも下がってし

まった子は79人と、足して350人ぐらいを判定するので、4分の1ぐらいが両方下がった。それ以外の子はどちらか上がっているということです。

全体的な数字はまだまだ低いですが、おおむね先生方は頑張っていたと言っていると思います。

それで、質問紙を見ていただくと、これは小学校ですが、先ほどの教育大綱のときに言いましたが、集団づくり、授業づくりをして学校に行くのが楽しいと言ってくれる子どもたちを増やしていきたいわけですけれども、今年度に限っては市が県や国よりも肯定率としては、今の6年生の子は学校に満足してくれていると思います。

ただ、普段1時間以上勉強している割合は、赤で書いているのが10%を下回っているのを示しています。あと図書館に行く頻度が月1回以上の割合も赤くなっています。図書館に行く頻度は週に3、4回以上、週に1回か2回以上、その次が月に1回以上、年に数回と、全く行かないという選択肢があって、月1回以上行っているのを肯定的と捉えたときの割合を表にさせてもらっています。だから、国に比べたら大分少ないと思います。

しかし、読書は嫌いなのかといったら、読書はほとんど国と同じレベルで好きと答えています。県よりも多くの子どもが好きと答えています。

自己肯定感に対しては、自分のよいところがあるかということに肯定的に答えた子どもは国、県より若干少ないです。先生はあなたを認めてくれているということに関しては、県より肯定率は高く、国より若干低い。

あとは、中学校は残念ながら学校が楽しいという子どもの割合が低いです。また中学校になれば、普段1時間以上勉強しているのは小学校のときよりも、国と比べて差が縮まってきていますが、10分以上読書している割合が減っている。月1回以上ということで肯定的に答えた子どもの割合は5.9%です。ここは懸念するところです。

あとは、自分のよいところがあると答えた割合は少し低いですが、先生はあなたのことを認めてくれていると答えた割合は、県より高いレベルにあることを見ていただきたいです。

今から勉強時間と成績に関することについて報告いたします。

これが3時間以上、2時間以上、というように選択して6択で答えることになっていまして、それに対しての偏差値平均を比べて、黒いラインは市の平均です。それを見ると、小学校は単純に、1時間以上勉強しないと平均点が取れない。中学校は数学、若干低くなっていますが、1時間以上は勉強しないと平均点は取れないということです。

その次は、6つも選択肢があったらわかりにくいので3つに分けました。1時間以上と1時間未満と、全くしない。こう分けるともっとはっきりわかっただけだと思いますが、当たり前のことですが、全くしない子が、小学校であればかなり点数が低いです。中学校はなぜか、小学校より点数が取れているのは理由がよくわかりませんが、

やはり1時間以上は絶対に勉強していかないといけないと思います。

それで、あとは勉強時間ではなくて、自分にもいいところがあるとか、先生はあなたのいいところを認めてくれていることに関して、それを肯定的、否定的と平均と棒グラフに表記して見たら差異をわかっていただけたらと思いますが、やはり肯定的に答えているほうがテストの点は高い。

先生があなたのよいところを認めてくれていることに関して、肯定的に受けとめてくれている子どものほうが、これも差があるということです。実際、差がありますけれども、統計的にも有意な差が出ていますので、それを学校の先生にも必ず見せたいと思います。よいところがある、先生が認めてくれている、青の棒で、丸、丸は両方が肯定、肯定。

次の緑の棒は、丸、バツで、よいところがあると思っているが先生は認めてくれていないと思っている子。黄色が、よいところはないと思っているけども、先生は認めてくれていると思う子です。最後の赤が否定、否定になっています。

それを見ていただいたら、形がジグザグになっています。マル、バツよりはバツ、マルの方の棒が高くなっている。国語を見ていただくと、緑と黄でしたら黄が高い。つまり、先生に認めてもらっていると思っている子の方が成績がよい。自分にはいいところがあると思っていなくても、先生から、他人から評価を受けていると思っている子の方が成績がいい。これが見ていて意外だった、算数以外はそうになっています。これも統計的に4つのグループ間で差異がある。数字だけ見れば、やはり先生が子どもたちを認めていくのは大事なことだと思えます。

1 市長

これは、統計的に有意な差異と言えるものですか。

1 教育長

青が勝っているというのは統計的に出ているのですが、緑と黄色については微妙です。しかし、実際に統計をとったら、とれます。

だから、私たちはしっかり認めていかないといけないということは現場の先生方に伝えていかないといけません。

いつも言っている生活習慣、早寝、早起き、朝御飯を4点満点でいつもどおりにしているが4点で、まあしているが3点、あまりしていないが2点、していないが1点で、12点満点で、10点、7点以上、6点以下で3グループに分けて、割合も出ています。もっと差が出てくる。これは因果関係まではまだわからないですが、やはり生活習慣が悪い子は明らかに点数が低いと思います。

読書時間は、これはなぜか6点以下の子の方が7点以上の子よりは読書時間が長くなっていて、なぜ長いかわからないですが、平均的には長くなっているのです、生活習慣はこれで大事なことだと思えます。

今までのところを見ていただいて、勉強時間は1時間以上はしてい

かないといけないということと、先生が積極的に子どもを認めていかないといいないというのがわかります。

もう一つ、読書習慣が前の総合教育会議でも話をして、気になったので、小学校と中学校についても一回調べてみました。月1回から3回以上図書館に行っている子、そして読書が好きか嫌いか、4通りに分けてみました。それで見ていくと、読書時間は読書好きな子が多いのはわかりますけれども、ほとんど行かない子は小学校で1,300人で、中学校は500人ぐらいいますけれども、その6割以上は読書好きだと言っている子がいる。ということは、学校の図書室に魅力が感じられないのかと考えます。専門家のアイデアというか、そういった手助けが必要かもしれないとも思ったのですけれども、それで調べさせてもらいました。

以上です。

1 市長

よく分析していただいたと思います。

今、教育長にお話しいただいたところでありますが、何か皆様方からお気づきの点等があれば承りたいと思いますが、いかがでしょうか。

1 西畑委員

ここまでしていただいたので、読書時間や図書室へ行く頻度と算数等の成績表の相互関係を見てみたいと思うのですが。

1 教育長

成績もあります。時間がなかったので今回は省略しました。申しわけありません。

1 西畑委員

概要でかまいませんので教えてください。

1 教育長

まだ統計的な処理もしていないので、4分割すると図書館へ行く頻度が多くて読書好きという子の偏差値は、50あります。図書館へ行く頻度は少なく、読書好きの子も49あるのですが、図書館へ行かなくて、読書も嫌いの子は44です。ですが、図書館へ行く頻度が多くて読書嫌いの子は40より下です。中学校では20人しかいないのですが。

小学校も図書館へ行く頻度が多くて、読書好きは51で、図書館へ行かなくて、読書嫌いの子は44です。具体的な差があります。

1 西畑委員

本に興味を持ってもらえればいいですね。

1 市長

読書タイム等をやり始めて、経年的な変化はどうか、読書をする習慣がついたとか、好きだと答える子どもが、実際の取組の結果、増えたでしょうか。

1 教育長

経年は同じ集団で比較しないと、わかりません。図書館頻度は統計がないです。

1 市長

小6の子が中3になっているというのは、さっき成績のところでありましたが。

1 教育長

今はわかりませんね。

1 西畑委員

同じ子の比較は、もちろんそれはあるでしょうけれども、例えば小学生と中学生では生活のリズムが違ったりするので、一概にそれが図書館、図書室へ行くかどうかの原因になっているのかわかりませんが、違う子だけど、同じ学年だったら着実に読書習慣が増えていっているのかどうかはわかるかもしれないですね。

1 市長

何百人かで比べているわけですから、必ずしも同じ生徒でなくても、そこにここ数年の取組の成果が出ていてもおかしくないかなと思うのですが、どうでしょうか。

1 まなび推進課指導係長

感覚ですが明確にそこまで変わったという印象はありません。

1 教育長

読書が好きというのは、平成27年の調査は79.5%だったのが73.9%で、小6になると63.6%で減っていきます。読書が好きというのは。

1 市長

学年を追って。

1 教育長

追って、減っていきます。

1 市長

同じ学年ではどうですか。昔と今では。

1 教育長

同じ学年は、小学校で平成27年が平成29年に上がっていますが、なぜか平成30年はかんばしくありません。

1 西畑委員

子どもたちが図書室の本をある程度見たら飽きてしまうようなという感じは受けますか。

1 まなび推進課指導係長

新しく買っていただいた本であれば、比較的食いつきがいいのかなと感じます。1回読んだら、ある程度探してみて、ちょっと興味の無いものであれば、また向かないような感じになると思います。

1 西畑委員

月に1回ぐらいは子どもたちの授業の時間帯を決めて、みんなを連れていってというような取組をなさっていますよね。その割には図書室に行っていないと答えた子どもが多いのはなぜですか。

1 教育長

授業以外で書いているためです。

1 西畑委員

授業では行ってはいるものの、そこで興味を持ってまた来てくれるかどうか大事ですね。

1 教育長

そうですね。授業では行くけれども、授業以外では行ってない。

1 名倉委員

図書室の環境が、今まではしっかりと整備されていなかったことや、行く魅力が図書室にないことが多かったです。小中の図書室に何か魅力があるともっと行く回数が増えると、簡単に考えたらそうだと思うのですけれども、その図書室の環境を整備していただいても、やはり何か注目の引きどころがなかったり、子どもたちの感覚的に図書室が遠のいていたりするというのが現状だと思います。ですので、何かアドバイスを得るとか、現状を打破しないとなかなか足を運ばないのではないかなと思うのですけれども、何かいい知恵があったらと思います。

1 市長

いかがでしょうか。

1 教育長

司書教諭の方がおられますけど、忙しいので、なかなかそこまで手が回らないということです。

1 西田委員

例えば他の学校での図書館の運営のされ方とか今どんなことをされているかということも見ていただいたりしているのですか。

1 市長

おそらく市内の学校でも、差があるのでしょうか。

1 まなび推進課長

小学校、中学校、ともにできるだけ子どもたちに図書室へ足を向かせるような努力はしているとは思いますが、常に開いている状態ではない。放課後の何時から何時まで、また昼休みの何時から何時までという決められた時間に開いている状態もあるのと、先ほどありましたように司書教諭です。授業を持ちながら司書免許を持っている者がそれに当たっているということです。専属でそれのみに専念できないということがあります。高等学校へ見学に行かせていただきますと、図書室に行ってみたいなというような気にさせるような仕かけを司書教諭の方がしています。

それを我々もまねをしていこうと言いつけているのですが、なかなか、週に20数時間も授業を持っていたらそこまで手が回らないというのが実情です。

1 吉田委員

天理市の学校は、地域のボランティアの方が図書室の本の整理や宣伝を子どもたちにしていますね。

1 教育長

ボランティアの人にいただいています。

1 吉田委員

ボランティアの人からすればなかなか、自分のやっつけていい範囲がどこまでなのか、遠慮があると思います。ある小学校へ行ってみておもしろいと思ったことがあるのですが、廊下を歩くと図書室への矢印が書いてあったり、そっちへ行ったら図書室まで20歩と書いてあったりしてありました。

図書室へ行くと、毎月ディスプレイを変えたりしていろいろな飾りつけをしたりしておられるところがありましたけれども、それは地域の方がボランティアで週何回か来てくれているということでした。

学校の司書教諭の方は忙しいですから、地域の方に自主運営をやってもらったらいいではないかと思います。そうするととなると、西田委員がおっしゃったように他の学校はどうしているのかというボランティア同士の交流等によって発展していくと思います。

1 西畑委員

私の妻が小学校のボランティアで小学校へ行っているのですが、実際やっていることといたら子どもへの貸し出し、返却、図書の整理ですね。前裁小学校は司書を入れてもらっているので、新刊の登録というようなことをやっています。その中でこんなのが入ってきたからこれを出してみようとか言っても、先生の承認が要るので、こんなのをしたいと提案しようとしたときに、先生がまずつかまらなくてまたにしようかと言って延び延びになっているという現状もあります。そういうことがよくあるようです。

1 市長

お薦め図書やこれがおもしろいみたいことをやってみようと思ってもう実行できていないということですか。

議会の中でも、学校司書という話が前から出ていて、なかなか予算的に専従がつけられない中で、司書教諭の皆様方も忙しくて手が回らないということからすると、ボランティアの方にどうしっかりと活躍いただけるかとか、うまくやられている事例を参考にするということが、今までのところで出たご意見かなと思いますが、一度、我々でも、今日のことを踏まえまして、どういう形であれば、それこそボランティア同士の横の連携等を考えていけたらと思います。

読書以外の点も含めて、もし他にお気づきの点がございましたらお願いします

1 名倉委員

学力についてですけれども、小学校で取り組んできた結果がどんどん少しずつ伸びてきている小学校があると思います。その小学生が中学校に今いるわけですけれども、三、四年前と比べて伸びている小学校の取組と、そうでない小学校の取組とどう違うのか明らかなことはありますか。

1 教育長

先ほど言いましたように、年度の比較というのができないので、また成績が良い学年も悪い学年も出てくるのですけれども、県の学力テスト

トがありますので、それを分析して下さいと、指示は出しています。

1 市長

傑出してどこかだけが飛び抜けているという状況ではなかったですね。継続的に苦戦しているというところはあったかと思います。

1 名倉委員

苦戦している学校は、学校自体が落ちついていないとか、何か原因があるのですか。その環境が整っていないので学力にも影響があると、そういうのではないですか。もちろん、子どもたちも、年齢が違う子どもたちが入ってくるので一概に言えないですけども、その原因とか、もしわかれば教えていただきたいなと思います。

1 教育長

原因と言っていいかわかりませんが、先生の力、先生の同僚性が変われば、また変わっていくのかなと思う学校はあります。

1 市長

私の表現が不適切だったかもしれませんが、苦戦していると言いましたが、そこが落ちていっているかというところと、頑張っている部分もありました。

教育長の説明にもありましたが、家庭学習が決定的な要素のように思うのですけれども、どれだけ先生方に頑張ってもらっても、そもそも1時間以上勉強している子が他の地域よりも少なく、全く勉強しない子がいるということになると、なかなか学校だけの責任ですというのも酷な話かなと思います。

1 教育長

それでも先生が頑張らないといけません。

1 市長

ただ、1時間以上家庭学習をするという中に、宿題の出し方とか予習のさせ方とか、学校外で勉強をやってこられる工夫みたいな部分についてはどうでしょうか。

1 まなび推進課長

家庭学習については以前から言われておりますので、学校ではできるだけ家庭学習の仕方というようなマニュアルをつくって、生徒に知らせてみたり、宿題の出し方について工夫をしてみたり、いろいろ取り組んではいただいているのですが、それが定着するものとしなものがないのが非常に極端な状況です。

この家庭学習の中に塾が含まれているのか、含まれていないのかがわかりにくいですが。

1 教育長

塾は含んでいます。

1 まなび推進課長

塾を含めて家庭学習という捉え方で、ここまでしていないとなるとかなり厳しい状況かなと思います。

1 市長

しかし習い事となると、ご家庭の方針でというケースであれば十分

あり得ると思います。ですから30分未満と、全くしない児童をどれだけケアできるかにかかっていると思います。それは全然していない、宿題もしてきていないということでしょうけれども、その子どもたちに対してどう接しているかというところで、何かございますか。

あるいは、実際にどこかの学校が取り組んだ結果、いい結果につながったとか、そういう事例はないでしょうか。

1 教育長

自主学習ノートを小学校から取り組ませている学校が多いです。

1 市長

宿題という形ではなくということですか。

1 教育長

宿題もするけれども、宿題で1時間もかからず早く終わった子どもには自主学習ノートをさせています。自主学習ノートについて説明してください。

1 まなび推進課指導係長

自習学習ノートについては、高学年を中心に出していることが各学校、多いようです。自分の苦手なところや興味のあるところ、社会や理科に興味があるのであればそれについてとか、漢字が苦手な子なら漢字を中心にするとか、自分で課題を選んでやっていくもので、またテスト前であればそういったものを、自主学習ノートでテスト勉強をしてというふうな出し方をしている学校があります。

1 市長

どうですか。その他お気づきの点があれば聞かせていただければと思います。

1 西畑委員

宿題を持って帰ってきて、まず宿題をやりなさい、嫌々でもやりなさいと言ってやらせた後、5年生であれば家で毎日50分は勉強しないといけないらしいのですが、本人としては50分間何に取り組んでいいかがなかなかつかめない。

今のお話であれば、漢字が苦手だったら漢字をやろうとか、そういうふうに自分で考えてできればいいのですが、何に取り組んでいいかわからない。だから、例えば家で1時間、2時間、勉強する気力があっても、何に取り組んだらいいかわからなくて、教材がなくて、結局もう何もやることがないから何もしないというようなことになっていくケースもあるかと思います。

自主学習ノートも最初にこういうふうにやりなさいという指導はもらって帰っているのですが、それを見て、一体何をやったらいいのかと困っているのが、最初のうちはほぼ毎日ありました。そこはたまたまの話ですが、保護者がきちんと目を向けてやって、こうすればという話ができるかどうか大きいと思います。

1 市長

なかなか今の保護者の皆様方のライフサイクルも多様になって、それだけお子様とコミュニケーションをとりながらやれるところばかり

ではないので、そういう中で学校がどう子どもと接するかによってしっかり勉強できる時間を確保できるかどうかということがあります。ここでどうにか全国との差が埋まらない限り、おそらく点数的な部分は追いついていかないだろうと思います。

1 西畑委員

先生にどうやったらいいですかとすぐに聞きに行ける子はいいですけども、そうでない子がたくさんいるだろうなと思います。それが、さっきの自己肯定感の中で認められる、認められていないという部分が出てくるかもしれないです。認められていると思えば先生に声もかけやすいですし。

1 教育長

家で確認してもらえたらいいですね。小学生で自主的に勉強する子は少ないですよ。話がずれますが、やはり勉強時間が長い方が本を読んでいる時間も長いということで本人のやる気次第で、3時間以上勉強している子もいて、その子は平均的に本を50分程度読んでいると推定されました。

小さい頃からの習慣づけが大事だと思います。だから、私たちは高学年を意識しているけれども、幼稚園へ行くまでに本を読む習慣づけをしっかりとしていけないと思います。

1 市長

3時間以上は、長すぎかなと思います。何も習い事に行っていないのに、自分でいろいろと見つけて家で3時間以上勉強するというのは、それは考えがたい状況かなと思います。そのレベルの子は、それぞれが頑張っていただければいいですけども、やはりほぼやらないという子については、ご家庭にそのままお任せするだけでは残念ながら、児童が学習する機会に乏しいというところをどうしっかり確保してあげられるのかが、公立の役目だと思います。

1 教育長

保護者に、子どもに勉強させることは親自身、未来への投資だということを伝えていくことが難しいです。

1 市長

親の意識を変えていくということですね。それは大事だと思いますが、そういう意識を持っている保護者は結構しっかりとやらせるところなので、ご自身があまり勉強してこなかった方についてどうであるかですね。

1 教育長

今頑張っていることが自分に返ってくることを、子どもに伝えないといけないですね。

1 市長

せっかく教育長に分析していただいて、決定的な差異があることがわかったので、ぜひしっかり取り組んでいただきたいです。

その他よろしいでしょうか。今、読書の件でこの家庭学習のところをお話いただきましたので、もう一つ分析していただいた自己肯定

感のところについて何か皆さん、ご意見はございますか。

1 吉田委員

本人に自信がなくても、先生に認めてもらった子が成績は上がるというのが興味深いですね。

1日に全く勉強しないという黒いグラフの子たちですけども、全くしないということは宿題をしないということですね。ここの部分をまず減らしていこうとすれば、やはりきめ細かい声かけとか、一人一人をしっかりと見ていくという、先生が30人を一遍に見るのではなくて、一人一人を見守っているような、そういう関係性が大事だなと思います。

1 市長

いかがでしょうか。

1 西畑委員

中学校の国語の先生が褒め上手だったということですね。そのバツ、マルのところですね、マル、マルに匹敵するところがすごいと思います。声のかけ方が重要なかなと思います。

1 教育長

ちなみにバツ、マルは284人、1,600分の284で、バツ、バツもバツ、マルもあまり人数は変わりません。マル、マルは903人いますので。

1 西田委員

これは自分によいところがないと思っている子どもも、先生からあなたのよいところはこういうところだと認められると思っているということですね。

1 教育長

はい、アンケートにそう答えています。

1 市長

現在の教育大綱をつくっているときから先生が子どもたちを認めていくというところを強調して取り組んでいきましょと、言ってきましたけれども、その後、教育現場での意識は変わっていますか。

1 まなび推進課長

教育長が、常々そう言い続けていますので、学校現場もかなり意識が変わって、子どもたちのよいところを見ていこうということでやっています。

1 市長

自分のよいところは100人いたら100人違うと思うのですが、どういう点で子どもたちは認められていると感じているのですか。自信がないけれども、先生が私のいいところを認めてくれていると、どういうポイントにおいてそう思うもののでしょうか。

1 まなび推進課指導係長

学校ではさまざまな活動がありますので、勉強以外でも運動会で応援団長で頑張ったとか、大縄跳びとかそういう運動系で頑張っているであるとか、また委員会活動とか、そういったところで頑張っているとか、学校生活全体でいろいろなところに視点を置いて子どもを見て

いっているところがあるのではないかと思います。

1 市長

いかがですか。

1 西田委員

子どもにとっても、認められているなという感覚は、日ごろの積み重ねだと思います。それがおそらく、子どもの心の安定や先生との信頼関係やこの先生の話は聞こうという前向きな気持ちにもつながるでしょうし、非常に大事なところだと思います。

1 市長

せっかくこうやってバツ、マルといったおもしろい分析もできたところなので、またここは先生方にしっかり意識していただけたらと思います。

生活習慣のところでは、家庭学習と近いような要素もあると思いますが、これは何か工夫があるのですか。

1 教育長

工夫はその子の生活習慣と成績との相関関係があるということを伝えていくことです。早寝、早起き、朝御飯、この3つだけです。

1 市長

それについてのご家庭への啓発はしましたか。

1 教育長

1回はさせてもらいました。

1 市長

反応はどうですか。

1 教育長

意識はしてもらっているとは思いますが。

1 まなび推進課長

学校も校長通信等でどんどん、それを言い続けてほしいと指導しています。生活習慣と学習成績と相関がありますと、具体的な数字を出してもらってもいいので言ってほしいと言っています。

1 市長

いかがでしょうか。何かお気づきの点はございますか。

そうしたら、そこもまた引き続いてフォローしていくことにしたいと思います。

教育長から何かありますか。よろしいですか。

1 教育長

何かこういうのはどうなっているのかと聞いていただいたら、回答をさせていただきます。ただし、何を推計したらいいのか、言っていただければですが。

1 西畑委員

生活習慣と読書習慣についてどんな関係になっているか興味があります。

1 市長

生活習慣と読書習慣の相関関係。

1 西畑委員

だから、早寝、早起き、朝御飯という子が本をたくさん読んでいるかどうか。

1 市長

どうでしょうね。

1 西畑委員

そこに関係がなければ、本を読む子は成績が上がるし、生活習慣がよければ成績が上がるし、ということで独立して言えると思います。

そこに何か相関関係があるのであれば全部つながっていて、そこから何が基点になっているのかと引き続き調査が必要になってきますね。

1 教育長

おそらく、ないと思います。

1 市長

一般論的にはきっちりした生活習慣の子は本を読むのかなというイメージを持ちがちですが。

1 西畑委員

そうとも限らないということですね。

1 教育長

人数があまりにも少な過ぎて差異があるかどうかわかりません。計算してみないとわからないですけれども。

1 西畑委員

高校生であれば本をひたすら読んで夜更かしをしていることもあるでしょうから、生活習慣はだめだとかがあるかもしれませんね。

1 市長

小学生時点だったら、見た感じ何か睡眠時間が不足している子でも成績が上がっているというような感じがあったので、中学校ではまた違うと思いますが。

そもそも睡眠時間が不足ぎみの子どもの数は、相当数あるのですか。

1 教育長

睡眠時間の不足は、寝る時間と起きる時間を引き算してみたらわかりますが、成績までつながっていません。時間を聞いているのは天理市のアンケートなので、成績は別のものです。

1 市長

1日3時間以上、勉強するために塾へ行っている子は明らかに早寝にはならないと思いますね。塾が終わって帰ってきた時点で11時とかくらいでしたからね。

でも、せっかくこうやってできたので、先生方にぜひ現場で参考にいただければと思います。

その他、いかがでしょうか。

1 吉田委員

生活習慣と成績の相関関係ですね。生活習慣を急に改めたから成績が伸びるかといったらそうとも言えないと思うわけですがけれども、先生が子どものいいところを認めてあげるといふことと成績の相関関係

としては効果があると言えそうですね。教育長の分析でも差異が認められていますし。

1 教育長

この差は高いですが、統計処理したら2グループ間の差は誤差の範疇になるとのことです。

1 市長

しかしこれは強調していきましょう。他のものはすぐに変えられませんが、ここは先生方の心持ちで一番何とかなるところだと思います。生活習慣はご家庭の考え方自体を根本的に変えないとなかなか難しいけれども。

1 名倉委員

先生方が一人一人の子どもの特性を見きわめて、その接し方、言葉がけ、どれ一つとってもやはり子どもにすれば認めてもらっていると感じると思います。ですので、それが一番大事かなと思います。

1 市長

他にいかがですか。

1 西畑委員

5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICTをどの程度使用しましたかという設問があって、これの率ですね、国に比べて8.2ポイントも少ない。県に比べると2.1ポイントという差はわかるのですが、奈良県自体があまり進んでいないのでわかる感じはあるのですが、それにしても、どうしても差があり過ぎる。

大綱の中でもICTを充実させるとありますが、これを指導される先生方が使いこなせるのでしょうか。また機器が入ってきて子どもたちにたくさん使えるようになりそうですか。

1 まなび推進課指導係長

2学期からiPadを入れていただきまして、非常に学校現場でも活用していると聞いています。

1 市長

ここはぜひ、使う先生と全く使わない先生で落差があることにならないように、ICT系が苦手だなという先生も抵抗なく使えるような形での研修や講習はしっかりやっていきたいと思います。

1 教育長

使いやすいようにアプリを入れていただいています。

1 まなび推進課指導係長

iPadは学校では子どもたちが取り合いになるほど好評だそうです。

1 市長

2学期以降がどうなっていくかですが、もしこの場でいい工夫があれば紹介していただけたらと思いますがいかがですか。また、その他はいかがですか。

1 吉田委員

学力学習状況調査ですが、回答が返ってくるのが早くなりましたね。私が教育現場にいた時は、2学期に返ってきてそのころには子どもた

ちは問題もなくして自分が何ができて何ができなかったか振り返りができなかつたです。この学力学習状況調査は、子どもたちがこれから身につけるべきことを示している非常によく考えられた問題だと思ひます。また、中学校でいへば、教科先生方が問題をつくつてその結果から自分たちが指導したことがどれだけ定着しているかを確認して、また子どもたちの指導に活用していくわけですが、受けっぱなしになると振り返るチャンスがないと思ひのですが、今は振り返りについてはどのようにされていますか。

1 まなび推進課長

確かに今は夏休み中に回答があるのですが、子どもたちに対してというよりは学校全体で振り返つていこうというものでして、日々の授業の中でどこに注意して指導すればよいのかを6年生の先生だけではなく1年生から6年生のすべての先生で振り返りをしていますので、やりっぱなしではなく、徐々に学校の中で学力学習状況調査の趣旨が理解されてきているのではないかと思ひます。

1 吉田委員

子どもたちが一人ひとり振り返りをするのではなく、先生方が振り返つて日々の授業に活かしていこうというものなのですね。わかりました。

1 市長

その他ご意見はありますか。

1 教育長

学力学習状況調査の次の日にでも子どもたちと答え合わせをするべきだと思ひます。

1 市長

どこかこれ自体調査のように捉えられている節があるので、せっかくの機会ですうまく活用していただきたいと思ひます。

その他よろしいですか。ないようですのでこれで本日の総合教育会議は終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

閉会 午後4時08分